

訪日客は過去最多

独立行政法人国際観光振興機構(JNTO)によると、2007年に日本を訪れた外国人は834万7000人で過去最高を記録。うち観光客は前年比18・3%増の595万4000人だった。国と地域の内訳は韓国が208万4000人(前年比29・1%増)、台湾125万6000人(同6・0%増)、アメリカ49万2000人(同0・2%増)、中国40万7000人(同26・1%増)、香港40万人(同24・0%増)、オーストラリア17万人(同18・4%増)の順。増加はアジア・オセアニア地

域に顕著だが、欧米で目立ったのはフランス。商用・観光合わせた訪日客が過去最高の13万8000人(前年比17・0%増)を記録。うち観光客は7万9000人(同26・0%増)だった。国は2010年に日本を訪れる旅行者数を1000万人にする目標を掲げている。日本の魅力を海外に発信し、日本への旅行商品を提案するなどの「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を官民一体で推進していることが、増加の背景にあるようだ。

また、全体的な不安傾向、アジア諸国では訪日ビザ(査証)

域に顕著だが、欧米で目立ったのはフランス。商用・観光合わせた訪日客が過去最高の13万8000人(前年比17・0%増)を記録。うち観光客は7万9000人(同26・0%増)だった。国は2010年に日本を訪れる旅行者数を1000万人にする目標を掲げている。日本の魅力を海外に発信し、日本への旅行商品を提案するなどの「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を官民一体で推進していることが、増加の背景にあるよ

外国人旅客の最も関心のある体験トップ10(2007年)
(複数回答、国際観光振興機構)



の取得の緩和措置や、所得の増加などが大きな要因とみられる。

がトップ。「伝統的建築様式」(49%)、「伝統的日本庭園」(46%)と続いた。少数だが、工場見学や果物狩りなどもあった。

さらに、インターネットが発達し、日本を訪れた人や日本に関心がある人らが様々な情報を発信できるようになったことも大きい。「好みに合わせた個人旅行を組み立てられる環境が整ってきたのも影響しているのでは」と同機構は説明する。

また、フランスのガイドブック「ミシュラン」も日本を紹介するものが発売されるなど、外国人が自国で手に入れられる情報も充実してきた。

同機構が昨年、日本への旅行者に行った調査「グラフィック」では、最も関心のある体験として「日本料理を食べる」(71%)

桜美林大学教授の鈴木勝さん(観光マーケティング論)は「日本の観光情報の発信はまた始まったばかり。外国人はようやく生の情報に出会うことができるようになった」と指摘。さらに「各国の多様な需要を敏感に読み取り、対応できる人材の育成も必要。そのような努力が観光資源の新規開発や充実にもつながるはず」と話している。

情報充実 目的はつきり

「各国の多様な需要を敏感に読み取り、対応できる人材の育成も必要。そのような努力が観光資源の新規開発や充実にもつながるはず」と話している。